

刷新—信仰から真行へ 立教100年に向けて“創業の飛躍”を

□世界人類怨親平等供養の継続

いまだに続く世界各地の紛争、経済戦争などを鑑み、今年度も世界平和を祈念して「世界人類怨親平等供養」を継続します。

□圏域制度の進展

圏域責任者のもと、理事、教区長のマンパワーを結集し、圏域の特性を大切にしながら、話し合いによって情報やアイデアを活用し、教区・支部の活性化を図ります。

□会員の生命を守る取り組み

本部、圏域、教区、支部に於いて減災・防災に取り組みます。

□支部の創業の精神を確認し、新たな活動に取り組む

支部の創業の精神を確認し、支部長と会員とよく話し合っって新たな支部活動へ繋がります。

「仁愛と至誠」で人と接する心づくりと育成

①在家宗教の意義を修験実証する

- 「朝夕のご挨拶」(勤行)と天茶供養の徹底
- 茶話会活動の推奨

②支部への足運びで「とも」に学び、歩む喜びを実践する

- 個人勉強と御五法修業の実践
- お浄めの徹底

③青少年の育成

- 青年部活動の活性化
- 支部青年会に繋げる多角的な学びの場づくり
- 青年部三聖地巡拝錬成を盛り立てる

④女性活動を推進する

- 若い女性の学びの場づくり
- 女性リーダーの育成

①在家宗教の意義を修験実証する

「朝夕神棚に拍手、仏壇に合掌、勤行特に祖先の供養ということは、如何にも形式に流れるようだが、形式が多く精神を作るもので、尊き極みである」(『ご聖訓』第十巻 49 頁)

- 私たちの学びの基本は、敬神崇祖・感謝報恩に溢れた家庭をつくることです。神棚に御祭神を、仏壇に御位牌(御霊祭)をお祀りし、朝夕のご挨拶を捧げ、天茶供養を行う。そうした祈りや天茶供養は行う人の真心を育てていきます。このような家庭を増やしていくことは日本の国づくりの確かな歩みとなります。
- その真心を、夫婦を起点として子どもや兄弟姉妹に家庭茶話会を通して伝え、縁ある方々に茶話会の機会を通じて広げていきましょう。それが変化の激しい今、非常に重要となります。

②支部への足運びで「とも」に学び、歩む喜びを実践する

「唯々宗教によって錬成せられた仁愛と至誠とを以て接したならば真に人を動かし得るであろう」(『真行』43 頁)

- 支部は豊かなコミュニティで、多世代、異業種、学生、児童がともに集えるところです。み教えの基本の学びをはじめとして、先祖供養だけでなく様々な公的供養(天茶供養)を行い、先祖からの流れを知り(御五法修業)、自分で自分が浄められ(お浄め)、成長する過程での様々な相談(個人相談)等によって学びが深まっています。
- 支部への足運びが、自分らしく生き、世の中に役立つ自分自身を育てていきます。
- 支部長を親とし、支部は大きな家族という絆を土台に、新たな魅力を支部の中に見つけ出し、積み上げていくことを心がけましょう。

③青少年の育成

「青年二たび来らず、日月二日なし」(『ご聖訓』第一巻増補版 32 頁)

- Z世代(1990年代後半～2010年代前半に生まれた世代)といわれる青年層は、物心ついた時からインターネットが普及しており、使えるのが当たり前の「デジタルネイティブ」です。この世代はSNSを使いこなす、商品等のモノを購入するよりも、旅行や遊び、学びといった体験(コト)にお金をかける「コト消費」を重視するといった特徴があります。
- このような世代が青年部でしか味わえない経験やみ教えの尊さを、活動を通じて学べるよう青年部活動を支援するため、圏域・教区・支部・家庭が連携を図ります。
- 就職や進学などで親元を離れ、地元の支部に所属する青年が少なくなっても、親子の結びつきを通して、各地にいる青年と支部とのつながりは保てます。多角的に学べる場を、支部・教区の現状に合わせて整えていきます。
- 本年度9月に実施される第41回青年部三聖地巡拝錬成を支援し、盛り立てていきます。

④女性活動を推奨する

「常に時代を率いて、時代と共に進歩し行く」(『ご聖訓』第六巻 41 頁)

- 今、社会は働き方改革などにより、女性は結婚後も、さらには出産後も社会でキャリアを高めていく傾向があります。この状況下で、女性の学び方も変容してきています。
- こうした状況を踏まえ、世代を超えた学びの場、世代別の学びの場、職業を持つ方の学びの場、子育て中の夫婦の学びの場の機会を、圏域、教区の現状に合わせて、ITなどを活用し、整えていきます。
- 時代に対応できる次世代を担う人材(リーダー、指導、教育、経営の資質など)を各地で発掘し、さらに支部・教区・圏域で活躍できる人材を育成します。